

平成17年の自治公民館長を紹介します

倉吉市自治公民館連合会の会長及び副会長が、同連合会規約により2月4日の常任委員会(地区協議会長)で互選の結果、次のとおり決定しました。

会長 桑本圭二(生田) 副会長 池田壽雄(旭北) 副会長 岡野勝義(広瀬町) 副会長 小原一幸(寺谷)

自治公民館名		館 長 名		自治公民館名		館 長 名		自治公民館名		館 長 名		自治公民館名		館 長 名	
上北条(10)	穴 窪	福 田 寛 治	成瀬	見 日 町	石 田 敏 昭	津 原	石 田 進	高城	今 在 家	山 増 成 久	鴨(23)	服 部	濱 本 篤 富		
	大 塚	仲 倉 裕 幸		住 吉 町	穂 久 仙 十 郎		上 神		中 林 正 樹	旭 原		藤 井 享			
	中 江	牧 田 忠 之		湊 町	馬 場 茂		寺 谷		小 原 一 幸	福 積		佐 藤 博 英			
	新 田	足 羽 一 昭		東 町	長 谷 川 東 光		大 谷 茶 屋		井 勢 勝 利	岡		朝 倉 栄 治			
	井 手 畑	生 駒 正 美		葵 町	吉 田 禎 元		和 田		深 田 正 則	桜		松 井 利 之			
	下 古 川	上 本 武		仲 ノ 町	倉 繁 朝 治		馬 場 町		小 坂 武 彦	河 来 見		河 本 則 明			
	古 川 沢	岸 田 威		宮 川 町	三 谷 誠		和 田 東 町		合 原 三 德	横 手		河 野 俊 久			
	小 田	山 本 公 孝		宮川町2丁目	池 田 宣 之		不 入 岡		小 谷 直	大 立		高 間 茂			
	小 田 東	藤 本 至		荒 神 町	土 橋 祐 子		国 府		田 中 聖 治	上 大 立		政 田 喜 代 人			
	中 江 西	大 月 悦 子		堺町1丁目	山 下 慶 久		大 沢		影 井 正 美	般 若		佐 伯 温 行			
上井(17)	清 谷	谷 田 和 久	堺町2丁目	山 本 春 典	大 谷	大 森 敏 広	立 見	山 崎 靖 志							
	福 庭	河 口 忠 義	堺町3丁目	津 村 佳 人	国 分 寺	池 田 勝 美	富 海	藤 川 嘉 昭							
	福 庭 東	橋 村 優	研 屋 町	高 田 久	秋 喜	小 谷 義 博	下 大 江	石 賀 由 光							
	海 田 東 町	伊 藤 観 一	明 治 町	亀 山 隆 一	福 光	小 椋 郁 男	東 鴨 新 町	内 田 美 男							
	海 田 南 町	穂 近 三 郎	明治町2丁目	吉 村 隆 明	横 田	山 口 克 洋	長 坂 町	吉 村 勲							
	海田西町・河北町	有 福 一 雄	大 正 町	小 谷 卓 弘	黒 見	池 田 喜 男	長 坂 新 町	中 井 秀 雄							
	大 平 町	谷 田 正 義	大正町2丁目	田 中 俊 幸	西 福 守 町	由 井 洋 之 助	弓 削	山 下 博							
	天 神 町	盛 山 信 行	新町1丁目	角 原 重 利	秋 喜 西 町	永 田 憲 吾	大 宮	岡 本 考 喜							
	旭 東	前 田 淳 子	新町2丁目	國 本 洸 紀	秋 喜 新 町	三 上 一 治	岩 倉	梅 林 正 樹							
	旭 西	一 村 正 勝	新町3丁目	中 尾 和 照	才 ケ 崎	吉 岡 一 郎	菅 原	小 原 勝 美							
西郷(10)	旭 南	福 本 潔	魚 町	市 川 良 二	三 江	田 熊 重 雄	小 鴨	丸 田 克 孝							
	旭 北	池 田 壽 雄	東 仲 町	桑 田 東 之 夫	福 本	山 根 哲 明	中 河 原	桑 名 英 雄							
	上 井 柳 町	岡 野 邦 彦	西 仲 町	高 田 嘉 昌	尾 田	藤 井 操	生 田	桑 本 圭 二							
	上 井 本 町	道 上 忠 昭	西 町	安 藤 充 勉	志 津	尾 崎 鉄 晴	打 吹 団 地	南 條 教 光							
	上井町1丁目東	隅 川 浩 行	福 吉 町	谷 口 義 博	仙 隠	森 下 孝 秋	北 野	岩 谷 節 男							
	上井町1丁目西	足 立 猛	旭 田 町	坂 本 福 朗	横 谷	阪 本 幸 雄	北 野 住 宅	岡 崎 郁 子							
	河 北 団 地	三 好 清 治	金 森 町	井 中 正 夫	藤 井 谷	山 方 英 昭	丸 山 町	柴 田 一 彦							
	山 根	伊 澤 智 彦	福吉町2丁目	中 江 勝 行	福 富	福 井 輝 夫	西 倉 吉 町	中 田 勝 弘							
	山 根 茶 屋	永 禮 忠 幸	瀬 崎 町	北 代 規 一	沢 谷	野 島 照 正	福 守 町	新 田 征 男							
	伊 木	河 村 和 幸	東 岩 倉 町	大 澤 俊 二	杉 野	荒 益 正 之	鴨 川 町	富 田 敏 一							
上灘(12)	八 屋	矢 木 康 雄	西 岩 倉 町	田 村 幹 夫	悴 谷	山 下 高 司	鴨 川 町	南 磯 山 良 男							
	下 余 戸	杉 本 訓 志	越 中 町	小 矢 野 毅 彦	中 野	佐 々 木 茂 樹	天 神 野	上 田 悦 治							
	上 余 戸	涌 嶋 俊 作	越 殿 町	宮 近 均	長 谷	重 道 里 史	西 鴨	森 本 岩 松							
	上余戸住宅	宮 本 妙 子	広 瀬 町	岡 野 勝 義	森	陰 山 幸 則	蔵 内 村	本 稔							
	栗 尾	向 井 文 夫	鍛冶町1丁目	伊 藤 達 也	つつじが丘	山 崎 謙 一	上 古 川	海 地 清							
	大 原	山 口 修 身	鍛冶町2丁目	山 崎 政 彦	大 河 内	山 本 晴 輝	上 古 川 住 吉	坂 出 伸 一							
	虹ヶ丘町	大 塚 保 夫	河 原 町	小 倉 宏 紀	汗 干	佐 々 木 英 雄	石 塚	小 原 正 道							
	円 谷 町	内 川 隆 明	余 戸 谷 町	茂 嶋 延 康	下 米 積	田 中 隆	福 山	吉 田 公 範							
	米 田 町	福 井 英 紀	み どり 町	森 仁	上 米 積 本 郷	尾 崎 潤 二	中 田	栗 原 隆 政							
	駄 経 寺 町	佐 々 木 司 郎	八 幡 町	山 田 敏 彦	上 米 積 東	藤 本 浩	若 土	黒 田 和 正							
灘(9)	下 田 中 町	宮 脇 隆 夫	北 面	秋 久 孝 昭	上 米 積 西	山 松 義 人	生 竹	矢 田 克 重							
	上 灘 町	浦 川 い づ み	穴 沢	伊 藤 源 蔵	若 葉 町 1 丁 目	阪 本 寿 博	生 竹 仙 隠	森 下 幸 雄							
	田 内	種 部 光 宏	尾 原	美 船 栄 顕	若 葉 町 2 丁 目	谷 本 秀 人	耳	竺 原 宏 人							
	東 巖 城 町	河 本 光 雄	半 坂	筏 津 秀 樹	下 福 田	隅 坂 義 之	広 瀬	前 田 稔							
	三 明 寺 東	河 本 繁 治	別 所	伊 垢 離 正 人	上 福 田	杉 本 寛 仁									
	三 明 寺 西	駒 井 幸 雄	穴 田	伊 垢 離 和 幸	昭 和	岩 本 勝 志									
	昭 和 町	伊 東 保 郎	鋤	田 中 希 弘	妻 ノ 神	中 井 正 直									
	幸 町	向 井 純 悟	谷	湊 良 範	勝 負 谷	中 川 正 一	合 計								
										191					

印は地区協議会長 ○印は地区協議会副会長 2月4日現在(敬称略)

地区名	現在の名称	変更後の名称	バス事業者	変更の理由
上 灘	昭 和 町	倉吉パークスクエア北口	日ノ丸バス・日本交通	観光客のもてなしの一環として変更
成 徳	明 治 町	赤瓦・白壁土蔵	日ノ丸バス・日本交通	
明 倫	福祉会館前	福 吉 町	日ノ丸バス・日本交通	現存しない施設の名称が使用されているため変更
上 井	営林署前	上井町一丁目東	日本交通	
〃	上井町一丁目	上井町一丁目西	日ノ丸バス・日本交通	
灘 手	灘手農協前	灘手公民館前	日ノ丸バス	
社	農 協 前	歴史公園前	日ノ丸バス	

市内のバス停が、分かりやすい名前になります。

かねてより、増加する観光客へのもてなしの一環として、また、現存しない公共施設等の名称が使用されているバス停留所の名称変更について、検討してまいりましたが、このたび、市からバス事業者へお願いし、平成十七年四月からバス停の名称が変更されることになりました。

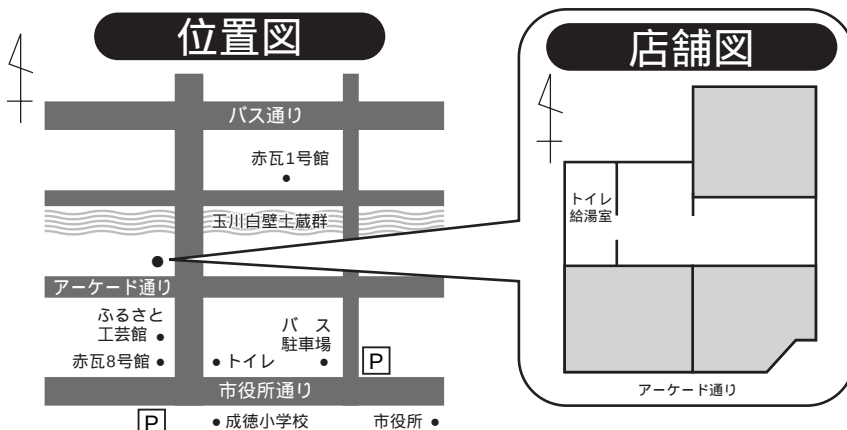
チャレンジショップ「あきない塾」 2期生店舗オープン！

鳥取県・倉吉市・倉吉商工会議所が連携して昨年より実施しているチャレンジショップ「あきない塾」の第2期生の店舗が2月5日（土）にオープンしました。あきない塾は、将来市内での独立開業を目指す「商業起業家の卵」のお店です。

今後、出店者に経営指導等を行い、独立開業できるよう支援をしていきます。皆さんもぜひお立ち寄りください。



店舗名 (屋号)	ふみ子の手作り工房	玩壺窯(がんこがま)	手染屋ゆい
代表者名	やまねふみ子	小椋克彦	奥野和義
業種	工芸品(手作り)小物	陶器(手作り)小売	草木染製品(手作り)小売
取扱品目	シルバーアクセサリ、布製品等	陶器(器、オブジェ、アクセサリ等)	タペストリー、Tシャツ、のれん等



▼市報縮刷版

書籍名	掲載の期間	販売金額
第1集	1953.10.15 ~ 1978.3.15	2,300円
第2集	1978.4.1 ~ 1983.3.15	2,200円
第3集	1983.4.1 ~ 1988.3.15	2,700円
第4集	1988.4.1 ~ 1993.3.15	3,500円
第5集	1993.4.1 ~ 1998.3.15	5,000円

▼倉吉市史

巻番号	販売価格
第1巻 古代編	4,700円
第2巻 中・近世編	5,500円
第3巻 近・現代編	7,600円
第4巻 自然・文化編	6,900円
第5巻 別巻	3,400円
箱	600円
合 計	28,700円

市では、倉吉市の古代から現代、自然と文化などについて編纂した倉吉市史と、昭和二十八年十月に第一号を発刊してから平成十年三月十五日号（第千百二十号）までを縮小してまとめた市報縮刷版の販売を行っております。（ただし第一集は残り六冊）今年関金町との合併を前に、もう一度倉吉市を振り返ってみませんか。是非この機会にご購入ください。

**倉吉市史・市報縮刷版の
販売をしています。**

申込・問い合わせ先：秘書広報課（☎22-8160 ☎22-8144）

アンニョンハセヨ!

韓召眞イムニダ

国際交流員 韓召眞^{ハンソジン}

お年玉

セヘボクマニバドゥセヨ(明けましておめでと)ございます!

「明けましておめでと」でございます。の挨拶はもう時期はすれのような感じがしますね。しかし、韓国のお正月は二月九日でした。韓国ではお正月やお盆のような伝統行事はいまだに旧暦を使っています。お正月には多くの人が本家に集まり、「先祖様を祀ったり、お墓参りをしながら過ごします。」

さて、新年の子供たちにとって一番の関心事といえば、当然お年玉ですね。韓国にも「セベトン」というお年玉があります。先日、ある小学校を訪問し、お正月の話をしました。子供たちに「皆さんはお年玉をもらうために何

かすることがありますか」と聞いたら半分以上の子供たちが「別に、テレビを見ていたらもらいました」と言っていました。

韓国ではお年玉をもらうためには「セベ」という韓国伝統の挨拶をしなければいけません。最近、お年玉を「たくさんもらえる方法」や「お母さんに取られない方法」、「少しでも済ませる方法」などの面白い意見がインターネットで広がっていました。韓国の経済が不況であるため、あげる人も、もらう人も必死で頑張っている。

何年か前に「ちびまる子ちゃん」で、まるちゃんが「お年玉で五千円もの腹話術の人形を衝動買いし、一週間くらいで飽きて悔しがっていた」という話を聞きました。やはりお年玉はもらうことも大事ですが、親が子供に使い方をちゃんと教えることも大事だと思います。

灘手小6年生

市長インタビュー

1月28日(金) 灘手小学校の6年生8人が、社会科の市役所見学で、長谷川市長にインタビューをするために、市役所を訪れました。

子どもたちは、交代で市長へ質問をし、また、地域の人から聞いたことをまとめ、市長へ「こんな街になってほしい!」「こんなところが変わってほしい!」などを交代で発表していました。



インタビューに訪れた子どもたち

部落解放
シリーズ 621

今に生きる私たち大人の役割

いつの時代も、子どもはみんなの宝もの”です。大人にゆとりがないと子どもの発達を保障することはできません。今一度、地域社会の中での大人としての役割を再認識し、子どもたちが健やかに育っていくことのできる地域づくりに向けて、行動すべきではないでしょうか。



人権尊重都市宣言のまち倉吉

乳幼児に対する虐待はあとを絶たず、昨年十二月には、倉吉市でも新聞等で虐待の報道がありました。また子どもたちを無作為に狙う犯罪も各地で発生しており、子どもたちが安心して生活し、健やかに成長していくことが、私たち大人の手によって阻まれているという現状があります。どうしてこのように殺伐とした社会になってしまったのか、とても心が痛みます。私が幼少の頃は、日が暮れるまで外で近所の友だちと遊び、また大人たちも忙しい中にも声をかけ合い、困っているときなどは助け合って生活をする思いやりのある日常でした。ところがこの頃は、みな忙しい生活の中、近隣の人たちとさえも顔を会わせることが少なくなっているような気がします。子どもの権利条約には「子どもの命、身体、心をやさしく守るといこと」、「子どもの能力、技術や学力を丁寧に育てていくこと」、「子ども一人ひとりが、ありのままの魂(精神)を自由に伸びやかに輝かせながら、生き生きとした生活を

差別のない明るい社会へ

築きあげていく姿を大人も子どもたちと一緒に楽しんでいくこと...と定められています。子どもは、周りの大人たちの愛情を受け、大切にされているという安心感から信頼関係や自尊感情を獲得していきます。そして、そんな毎日の積み重ねが、子どもたちに生きる喜びや力を与え、主体的に活動し、限りない可能性を発揮できる原動力になっていくと思います。乳幼児期にかかわる私たち大人の役割はとても重いものであり、責任は重大です。人と人のつながりが希薄になっていく今こそ、住民一人ひとりが地域の一員であるという意識を強くもち、「おはよう!元気かえ!」と互いに気持ちのよいあいさつを交わし合い、地域の行事に参加して人と顔を合わせる機会を多く持ちたいものです。昔のように情にあふれた人間の営みや地域の機能を充実させ、社会全体で子どもを守り、みんなで成長を喜んでいけるような体制づくりやその行動力が、今、私たち大人に必要なのではないのでしょうか。(部落解放・人権啓発資料作成委員会 村岡)